

# 「愛される演劇祭」をめざして

## 第5回 くにさき演劇祭開催



▲オープニングの「大恩子ども神楽」



▲パネルシアター「さるかに合戦」



▲多くの子どもたちが参加しました



▲国見田舎歌舞伎の皆さん

「演劇の里」づくりをめざして「第5回くにさき演劇祭」が、アストくにさきで開催されました。愛される演劇祭、楽しんでもらえる演劇祭、待ち望まれる演劇祭「をめざして開催される演劇祭も5回目を迎え、今回は、8月13日・20日・27日と3週連続して日曜日に県内アマチュア劇団の公演が行われました。

13日には由布市挾間町の「はさま新喜劇」による「あっちゃら こっちゃら 丁稚」が、20日には日出町の「Foryou Express」による瓜生島伝説を題材とした「遙か幻の愁い島」が上演されました。27日は、地元の国見田舎歌舞伎（国見町）が出演、「仮名手本忠臣蔵七段目一カ茶屋の場」を上演し、客席から大きな拍手が送られました。

また、20日にはマルチホールで「子どもフェア」が行われました。国東町の大恩小学校の皆さんによる「大恩子ども神楽」のオープニングに続き、くにさき図書館の読み聞かせボランティア「おはなしどーなっつ」の皆さんによる大型紙芝居やパネルシアター、クイズやゲームなどが行われ、会場に集まった子どもたちは楽しいひとときを過ごしました。

## 迫力ある舞台を鑑賞 本物の舞台芸術体験事業



▲国東農工高校の都留愛里さん(1年)が「アラブの女」役で出演しました(写真左)

アストくにさきアストホールで8月2日(水)、「本物の舞台芸術体験事業」として劇団わらび座ミュージカル「銀河鉄道の夜」の公演が行われました。この事業は、小学生から高校生までの児童・生徒に本物の舞台芸術を身近に触れる機会を提供することを目的に、芸術を愛する心を育てようと文化庁の主催で行われています。

この日は、国東市と姫島村の小・中・高校の児童・生徒700名が、ミュージカルを鑑賞し、迫力ある本物の舞台を楽しみました。